

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572108926		
法人名	社会福祉法人交楽会		
事業所名	グループホームもりの家 さくら館		
所在地	秋田県北秋田市米内沢字柳原14-4		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

もりの家介護理念を基に、「できる」事に着目し、「したい」事を利用者様と共に考え、生活歴や生活サイクルなど可能な限り実現出来るようサービスに繋げている。また、広い敷地を活用し、東屋でのお茶会やBBQ、庭の花や畑を眺めながらの散歩など外に出る機会を多く取り入れ、室内だけで一日が終わらないように気を付けている。家庭的な雰囲気を生かし、居間で皆さんが座れるソファを置き、利用者間のコミュニケーションの場となっている。今年度もコロナウイルス感染症対策にて外出先を検討したり、地域交流行事が中止となる中、代わる物を利用者中心に考え計画し、喜んでもらえるよう努め行っている。法人内の施設行事にも参加することが出来た。また避難訓練は地域の方や、もりよし荘の協力を得て行われ、庭の花壇の手入れを近所の方が行って下さるなど、地域との関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入しており、ホーム向かいの自治会館を会場に開催される地区の祭りに、利用者と一緒に参加し、唄や踊りを満喫している。焼き鳥・焼きそば・くじ・ゲーム等の屋台ではホームスタッフが活躍。老人クラブとの交流会にボランティアを依頼したり、ホームで調理したきりたんぼでタンボ会を楽しんでいる。家族会総会には家族が連れ立って参加しており、第三者委員も参加し、相談会も開催している。ユニット毎に専任の調理員を配置しており、長ネギや生姜でほんのりと香りを添えた当日の昼食は、色合いも良く、盛り付け、量とも申し分なかった。形の異なる陶器の食器も工夫されていた。ホーム前の東屋付きの木々に囲まれた広場はとても広く、外の空気を満喫できる環境にある。交通量が少ない地域であり散歩にはうってつけ。利用者のペースで一日がゆっくりと流れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	もりの家の介護理念について職員で話し合い、皆が共有できるよう、年度初めに職員倫理及び介護理念の勉強会を行い、もりの家介護理念を玄関に貼りだしている。	開設後十数年が経過し、理念の見直しを期待したいとの、前回の評価結果を踏まえ、年度末に理念について話合う機会を設けている。人事異動等による新任者が多いため、以前からの理念の共有と浸透が先決であるとの意見があり、見直しは見送ることとした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナウイルス感染症により地域交流行事が中止となる中、各ユニットや合同で工夫しながら、利用者中心に考え計画し行っている。避難訓練は地域の方の協力を得て行われた。	自治会に加入しており、ホーム向かいの自治会館を会場に開催される地区の祭りに利用者と共に参加し、唄や踊りを満喫している。ホームスタッフも踊りに加わっている。屋台の焼き鳥・焼きそば・くじ・ゲームはホームスタッフが活躍。中学生の職場体験実習の受け入れをしたり、小学校に招待され、利用者と訪問したりしている。老人クラブとの交流会にボランティアを依頼し、ホームで調理したきりたんぽでたんぽ会を楽しんでいる。参加希望を確認し、各地区で開催されている敬老会に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	例年は年一回、地域福祉講座の実施。要望に応じて、各地域へ出向き、介護教室や認知症予防等を開催し定着してきていたが、今年も感染症予防にて依頼もなく実施出来ない状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者のサービス実施状況や施設行事の実施状況を報告している。地域運営推進会議での意見を、職員会議等で取り上げ話し合っている。	自治会長、老人クラブ会長、近隣住民、森吉庁舎センター長、地域包括支援センターが参加の地域運営推進会議がホーム向かいの自治会館で2か月に一度開催されている。民生委員が欠員のため参加していないが、今後の参加に期待している。コロナ禍により、過去1回のみ書面開催としたが、他は感染症対策を万全にした上で、対面で開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	森吉総合窓口センターのセンター長を推進委員にお願いしている。市の地域包括支援センターとは、認知症予防について、ゲームや体操など企画し講師を要請するなど協力を得ている。	老人クラブの交流会を自治会館で開催しており、地域包括支援センターのスタッフが、講師として協力してくれる等々、日頃から密接に情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を理解し、制止せず危険が無いように見守り、納得するまで付添っている。安定剤等の精神薬は医師に相談し減量に努めている。また、身体拘束の勉強会の開催や毎月行動目標を掲げ身体不拘束の共通認識に努めている。	対象者は今まで皆無。身体拘束等適正化のための委員会が毎月開催され、議事録の内容が全スタッフに周知されている。身体拘束等の防止に向けた研修の実施も確認できた。玄関は遅番勤務者が帰る際に施錠しており、日中は自由に出入りできる状態である。	身体拘束防止マニュアルの末尾に、家族同意の書式を添付しておくよう期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類等の勉強会を開催し、虐待のないようにしている。また、虐待行為や身体拘束は人権侵害に当たることを、職員間で認識しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会へ参加したり、勉強会を開催し制度の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書等を家族に渡し、入居時にも再度説明している。又変更等がある場合は同意書を送付し、家族の方の理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の設置と掲示、家族の面会時及び電話等により、施設に対しての要望や、個人に対するサービスの要望等機会あるごとに伺うよう努めている。また、年一回の家族総会に意見を伺ったり、第三者委員の相談日を設けている。	各種行事での利用者個々の表情が満載の、ユニット毎の家族通信を毎月発行している。また、介護老人保健施設と合同の数ページに及ぶもりよし荘だよりを年2回発行しており、コロナ禍でも「元気な姿を見て満足しています。」「敷地内の散歩や盛りだくさんの行事が行われ、大変ありがたい。」「病院とは違い、感染症対策を様々工夫し、面会でできてうれしい。」と家族から好評である。年一回、全家族に家族会総会の案内をし、家族が連れ立って参加しており、キリタンポを味わう。第三者委員も参加し、相談会も開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において職員の意見を聞き、運営会議で検討し、職員の意見が反映されるよう努めている。又、年2回、法人での職員全体会議が行われている。	スタッフの家庭の状況を考慮し、曜日を限定しての夜勤希望に対応したとのこと。スタッフ個別の成果シートを導入しており、個別の年度目標、中間面接、年度末の面接が実施されている。希望により事務長との面談も可能。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用し、職員個人の目標を設定し、目標の到達度や支援内容の振り返りなどを面接で確認し、必要に応じて助言を行いながら、向上心を高められるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修をそれぞれの職員の力量に合ったものを受けられる機会を設けている。また、部署内研修では各職員に発表の機会を与え、知識の向上を図り実践に活かせるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設等での合同研修を計画したり、委員会も合同で実施している。また、グループホーム連絡協議会に加盟し、研修に参加できるように、調整している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時点で施設のケア状況を説明し、いつでも見学出来る事を伝えている。又入居前に本人と面談を行い、本人の思いに寄り添えるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネジャーや関係機関の職員同席で面談を行い、生活状況や現在抱えている不安や要望等を聴く機会を設けている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	もりの家介護理念を基に、人生の先輩として敬意を払いつつ、食後の片付けや洗濯たたみ等、出来る事を一緒に行い、食事のメニューや外出先等を一緒に考え、職員も共同生活者として意識を持って支援に当たっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時、生活状況やエピソード等を伝えている。また、施設行事や生活状況を写真にし家族通信で月1回送付したり、本人の誕生日には家族に連絡して、メッセージを頂いたり、誕生会に参加してもらい家族と過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望があれば行き慣れた理美容店に付き添いし馴染みの関係を保てるように努めている。また、地域の敬老式に参加できるよう、付添い支援や自宅周辺へのドライブ等行っている。	ドライブがてら生家やその地区を眺めに行くこと、記憶をたどり懐かしがってくれるとのこと。昔からの馴染みの理・美容院を利用している方が数名おり、他の方は訪問美容院を利用している。病院で知り合いに声かけされ、話をするかもしれないとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間には、全入居者が座れるようにソファを配置し、会話やテレビを楽しまれている。おやつ時には、食堂へ移動しお茶を飲みながら、利用者同士で会話されたり、職員も入り歌を歌われたり、レクリエーションなどを行われ過ごされている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、ご家族と連絡をとり、状況を伺い不安を少しでも和らげられるようアドバイスをしている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の記録や生活歴、普段の会話などから、その方の考えや要望を汲み取り、可能な限り、要望に添えるよう努めている。	朝の申し送り時に、スタッフからの利用者個々の変化や状況について情報を交換し、共有している。申し送りノートが大いに活用されている。読書の好きな利用者の居室に、毎日配達される新聞や、家族と外出した際に購入した雑誌等が確認できた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴や生活状況などの情報を収集し、在宅で生活していた時のライフサイクルを実現できるように努力している。また、入居前のサービス利用時の情報収集も行っている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の日々の過ごし方を記録や申し送りノートで職員間で情報を共有し、心身の変化の把握に努めている。また、排泄チェック表やバイタルチェック、食事量にも配慮し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、本人・家族の意向を伺い、日々の記録よりモニタリング評価をして、介護計画を作成している。また、日々の申し送りや月1回の職員会議などで意見交換を行い、職員全員に介護計画の周知をして実施している。	ケース担当制を導入しており、サービス担当者会議に向け、ケース担当者がケアマネジャー介護計画の内容を吟味し、共有している。介護計画の作成過程が、スタッフ個々の資質の向上につながっている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は24時間生活シートを使う事により、「きずき」の工夫をしている。情報共有に関しては、申し送りノート・業務日誌を活かし、サービス計画にそぐわない状況になったら、再アセスメントを実施、見直している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会館を利用した地域交流や、馴染の店での理美容や買い物等の付き添い支援など積極的に取り組んでいる。小学校の学習発表会に出かけたり、ボランティアの受け入れや地域の行事も感染症予防にて今年度は中止の状況。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、主治医を変更せず通いなれた病院を受診している。また、かかりつけ薬局を一本化して、薬の一包化や薬が変わった時の注意点など伺ったりしている。また、定期的に訪問歯科診療を導入し口腔衛生に気をつけている	入居前の主治医を継続することを基本としている。救急時は協力医療機関である北秋田市民病院へ通院している。かかりつけ薬局とは何でも気軽に相談できる関係が構築されている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師の配置がないが、週1回の訪問時に相談し指示を仰いだり、かかりつけ医に意見を伺ったり対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と一緒に診療方針を伺っている。また、入院後は定期的に面会して状況を看護師に伺ったり、医療連携室などを利用して情報収集に努め、早期に退院ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合の施設の方針を家族に伝え、終末期であっても、可能な限り介護できるよう職員・担当ケアマネとも情報を共有しながら実施できるようにしている。また、重度化に伴いサービスが行き届かなくなった場合は、家族と良く話し合い現状に合った施設をケアマネと共に考えるようにしている。	基本的に看取りは実施しない方針であるが、出来る限りホームでの生活が継続できるよう支援に取り組んでいる。重度化や終末期に向けた方針を入居時に説明しているが、家族に分かりやすいよう、方針等を書面で渡せるよう今後検討してみることが必要かと思えます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、常に職員が確認できるようにしている。また、応急処置等は勉強会を行ったり、実践された対応について後日、検討したりしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を実施している。また、自治会と地域防災覚書を交わし、災害時の連絡網や救援体制を作成し、地域の協力を得て避難訓練を行っている。また、水害時避難訓練の実施、非常時炊き出し訓練等防災訓練を実施している。	非常時の連絡網には近隣住民も名を連ね、避難訓練には近隣住民が10数名が参加し、玄関から第一避難所である東屋まで誘導してくれた。ホーム独自で炊き出し訓練を実施したことを受け、炊き出しのノウハウを地域住民にも伝えて欲しいとの要望が運営推進会議でも出されたとのこと。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	BPSD(認知症の行動、症状)の状態になられなくても、否定的な言動や制止・抑制をしないで、危険が無いように見守りや付き添いを行い、本人本位の行動をできるだけ支援している。また、施設内研修や委員会で人権擁護及びプライバシーの尊重に関しての勉強会を行っている。	「上から目線での声かけは絶対ダメです。」との管理者の言葉。言いたいことをよく聞くことが大事とのことで、利用者から手招きされ、居室でじっくり話を聞くとのこと。利用者の些細な表情や様子を常に観察し、対応することの大切さが感じられた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に物事を決めず、利用者と相談したり、思いを汲み取れるように「気付き」の支援を心掛けている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたい事、できる事を個々に行って頂いている。また、個人の日課で生活出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に即した衣類を家族に用意していただき、本人の好みをご本人、ご家族に伺っている。また、普段着と外出着は分けるようにしている。依頼により保湿クリーム等の購入もしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好きな食べ物を聞き、外食時にはメニューを選んでもらったり、普段のメニューと一緒に考え、下拵えなど手伝って頂いたりしている。又毎食後の下膳、後片付けなど出来る事を一緒に行っている。	ユニット毎に調理の専任を採用している。長ネギや生姜でほんのりと香りを添えた当日の昼食は、色合いも良く、盛り付け、量とも申し分なかった。形の異なる陶器の食器も工夫されていた。後片付けを手伝う利用者の様子が確認できた。敬老会での仕出し弁当、両ユニット合同での東屋のある広い屋外でのバーベキュー、道の駅での外食、コンビニやスーパーマーケットで各々好みの弁当を購入しての外出、誕生日のお祝いとして個別に外食等、様々なシチュエーションで食事を楽しめるよう工夫している。ホームの畑では、ナス、ピーマン、トマト、長ネギ、チンゲン菜、キャベツ、ニラ等々、多様な野菜が栽培され、利用者と共に収穫された野菜が食卓を彩る。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に不足が無いが、毎日記入して観察している。熱発など体調が悪い時のメニューを工夫したり、お粥や副食など柔らかく煮込んだり、キザミにしたり、状態に合わせて対応している。栄養マネジメントについての施設内研修も行われている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方は、毎食後、歯磨きの促し付き添いを行っている。また、定期的に訪問歯科医に診察をして頂き、状況を伺っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンの把握に努めている。また、トイレ誘導ではなく、トイレに向かった時に支援をしたり、利用者の行動を見ながらトイレの場所を教える事により、自らトイレに行けるよう支援したり、パット交換の自立に向けた支援も行っている。	利用者の表情や仕草を観察し気配を察し、トイレ誘導のタイミングを個別に把握している。排泄チェック表を活用し、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェック時排便の有無を伺ったり、意思表示出来ない方は排泄チェック表や、食事状況等より判断している。便秘時には腹部マッサージの実施や水分を多く摂って頂いたり、本人に運動の呼びかけ等で対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を考慮したり、無理強いせず順番などもタイミングを見て声をかけ要望に応じて入浴できるよう配慮している。	月・火・木・金曜日を入浴日とし、一人あたり週に2回入浴できるよう配慮している。午前に入りたくない場合は午後に変更したり、水曜日や土曜日にも入浴したりする場合もある。無理強いせず、臨機応変に対応している。好みのシャンプーを使用している方も確認できた。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々の習慣で休まれている。室温調整に気を配り、ゆっくり休んで頂けるよう努めている。不眠時には、その方に寄り添い、一緒に過ごしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬説明書」を綴り、常に確認できるようにしている。服薬内容の変更時は受診記録、申し送りノート等に記載し、状態の観察に努めている。又、薬剤師に注意事項を伺ったりしている。服薬時は2人で確認し誤薬がないよう努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせた家事仕事や、自宅で行っていた事を可能なかぎり行えるよう支援している。又個々に楽しみを見い出せるよう支援に心がけている。また、嗜好品を購入し提供している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内で日光浴や散歩、お茶や畑での収穫等を楽しんでいる。又、季節を感じて頂くためのドライブや、日用品や嗜好品の買い物に近くの店へ付添い支援を行っている。又、家族と買い物やお茶に出かけられる。	ホーム前の東屋付きの木々に囲まれた広場はとても広く、外の空気を満喫できる環境にある。交通量が少ない地域であり散歩にはうってつけ。鷹巣中央公園や阿仁河川敷、ホームの広場でも花見が楽しめる。八郎潟の菜の花ロード等々ドライブを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方には、外出時の食事代や日用品の購入、受診時の支払いを行って頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば取次ぎや利用者自らかける事ができる。また、お孫さんの写真が送られてきたり、誕生日のメッセージは読み上げ居室に置き、手紙の内容等、理解出来ない場合は、分かるように説明している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は、利用者の方も入りやすく、何を作っているか見え、調理の音・匂いも楽しむことができる。居間・食堂は狭さはあるが、バルコニーからは、桜の花、栗や柿の実を見る事ができる。また、季節に合わせた飾り付けを工夫している。	天井は無垢の杉、太い柱等から木のぬくもりが感じられる空間である。両ユニットが広くて長い廊下でつながっており、歩行訓練等に活用されている。両ユニット共に、クリスマスの飾りつけがされ、夜間はイルミネーションが灯る。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂椅子・長椅子等思い思いに座られ会話や趣味に興じられている。テレビのリモコンは常に側にあり自由にチャンネルを変える事ができる。また、マガジンラックを置き新聞・広報・雑誌等を置いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時及び適時、利用者及び家族に居室の配置を伺い、使い慣れたものあるいは、家族の写真等を身近に置いていただくようにしている。	ベッド、クローゼット、テーブル、椅子が備え付けられ、パネルヒーターとエアコンが設置されている。居室の壁は明るい白を基調としているが、正面の壁のみ各居室で色を変えており、茶、紺、橙等々、居室により雰囲気異なる。どの部屋もとても清潔である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、「待つ介護」に心がけ、利用者の行動を把握し、出来るだけ自分で行動できるよう支援に心がけている。食後の下膳など行われ、下膳時の安全を職員が見守りしている。		